

中学生の「税についての作文」



租税教育推進活動の一環として納税貯蓄組合総連合会並びに関係協力団体が中学生の「税についての作文」を募集し、川崎区・幸区の中学校から多数の作品が寄せられ、川崎南税務署長賞をはじめ各団体賞があり厳正な審査の結果、当川崎南法人会会長賞に川崎市立南大師中学校3年生、嶺琴乃さん、川崎市立川崎中学校3年生、長部あかりさん、川崎市立桜本中学校3年生、渡辺女依さんの3作品の作文が選ばれましたのでご紹介します。

「税の使われ方」

川崎市立南大師中学校3年

嶺 琴乃

税。それは日本にとって政治や環境、高齢者のサポートなどの面でとても重要なものです。

私たちは様々な場面で税金を払っていますが、そのお金は果たして正しく使われているのでしょうか。本来なら税金は、人の役に立つために使われたり日本をより良いものにするために使われていると思います。ですが私は、最近の税金はそのような目的で使用されているとは思いません。

そのように思う理由はいくつかあります。まず一つ目は、東日本大震災が起きた際に日本はがれきの撤去や仮設住宅の建設、人命救助などといった様々な対応をとりました。ボランティアも日本だけでなく世界各地から集まり募金などもたくさん集まりました。ですがその中で、私はニュース番組などで税

金が全く関係のない場所や目的で使われているということを知りました。困っている人がたくさんいて、一日でも早く震災した地域が復興しなければいけないのに関係のない東日本大震災を口実にした大規模な無駄遣いも様々なメディアから指摘されていました。

二つ目は、二十二年に東京で行われる東京オリンピックの新国立競技場や選手村などの建設費用です。これも私はニュース番組で知ったのですが、当時予定していた建設費用は千三百億円だったのに対し実際は約二倍以上の三千億円の値段がかかることが分かってきて、結局デザインから全て白紙に戻すこととなり白紙に戻すことを決めるまでに作ってしまったもののお金も無駄となってしまいました。

もちろん税は無駄遣いだけに使われているだけでなく、私たちの暮らしが豊かになるためにも使われています。身近なものだと私たちの学校で使用する教材の教材費や毎日のように利用

する道路や公園、病院や学校にも使われています。ある国の救急車では呼んで乗るだけでお金がかかってしまいましたが日本は税金があることによって、九九を押すだけで無料で乗せて病院まで運んでくれます。さらに税金が無いとゴミの投棄が増え大変なことになります。ゴミの処理にはかなりのお金がかかりますが、今、あたりにゴミが転がっていないのは税金がありゴミの処理ができるからです。この他にも税金が無いと大変なことはたくさんあります。

税金の無駄遣いが無ければその分違う用途で使うことができます、とても効率の良い税金の使い方ができると思います。そして、税金を納める大切さを国民全員が理解すれば増税となっても様々な問題が起きないと思います。本来は税金というもの、このように国民の必要としているもののために使われるものだと思います。税金は正しい使い方をすれば全ての国民の笑顔の源になるのではないのでしょうか。

中学生の「税についての作文」

納税の平等と 公平について

川崎市立川崎中学校 3年

長部 あかり

私が1年生の時、消費税が今の八パーセントになりました。その時、おじいちゃんに税金の話をしてもらいました。その時も、そして今でも私にとって最も身近な税金は消費税です。なぜなら私が払う税金は消費税だけだからです。私と妹を一人で育ててくれている母は、消費税の他に、働いているので、所得税や家の税、そしてちよっぴりお酒の税金なども払っています。おじいちゃんが教えてくれたのは、消費税は、千円の物を買ったとき、私が買っても妹が買ってもおじいちゃんが買っても誰が買っても、八パーセントの八十円を払います。消費税の他にも、車の税金、ガソリン、お酒、たばこなど、誰が買っても同じ税率で納税します。お金持ちもそうでない人もみな平等に税金を納めているのです。私

はこの話をおじいちゃんから聞いたとき、友達とフリカンで払うときのことを思い出しました。国民みなでお金を出し合って国を動かしているんだと思いました。

しかしおじいちゃんはそれのあと、皆が同じ額、同じ率で納税するのは確かに平等ではあるけれど、ある意味それが公平であるのかな、と私に聞いてきました。

私は友達とフリカンの話を例えて、男女十人の友達でバーベキューをやって一万円かったら皆から千円ずつ集めるのが平等だと思ったけれど、おじいちゃんは、沢山食べた男の子と少ししか食べた女の子と、同じ千円というのは不公平ではないかと、違う考え方もあることを教えてくれました。そして消費税と同じくらい納税額の多い所得税について話してくれました。

所得税は、所得のある人みな同じ税率ではなく、沢山所得のある人と少ししか所得のない人では税率に差をつけているそう

です。一定額以下の人には税金はかからずに、かかる人には五パーセントから四十五パーセントまで税率に差をつけて納税してもらう仕組みになっているそうです。

おじいちゃんからこの話を聞いて、沢山もうかっている人には沢山の税金を支払ってもらい、そうでない人には少しだけ支払ってもらって、私たちの日本を動かしていくというやりかたは、おじいちゃんが話してくれたフリカンのもう一つの分担方法そのものであるような気が

しました。そうして集められた税金などで私たちが受ける国からのサービスは、身近なものでは学校、警察、消防、救急、医療、公園、福祉など国民全員みな平等に受けることができます。おじいちゃんは最後に、このようにして国民の所得から集められた税金で様々なサービスが国民に平等に与える、返すという仕組みについて、「取得再配分」という難しい言葉を教えてくださいました。

7つの間違い探し



【作者紹介】

神谷一郎（かみや・いちろう） イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大法学部卒後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラスト

中学生の「税についての作文」

「税の使われ方」

川崎市立桜本中学校 3年

渡辺 女依

私は今まで税金はどういう役割があつてどういう使われ方をするのかハッキリ知ろうとは思わなかったので税金とは本当に納める意味があるものなのか、と少し疑い気味に感じていました。初めてこの作文を書くためにインターネットで調べたり私の親から税について聞いてみるといういろいろとわかつてきて逆に税金はなくてはならない物だと感じました。

まず私たちが義務づけられている小中学校でも一人一人にかなりの税金が使われていることがわかつて驚きました。小学生が約八十五万円、中学生が約九十八万円、と一人だけでほぼ百万円ちかくのお金が使われているのです。これで税金がなかったら全額を自分で負担しなければならぬと感じました。でも逆にこれだけのお金が使われて

いることがわかれると、自分たちはもっとそれに応えて一生懸命勉強をするべきなんじゃないかという感情も、正直私の中で思い浮かびました。だから学校で授業を受けることを面倒がついていたりそまつな受け方をしている人にももっと税金のことを知ってもらふ必要性があると思います。

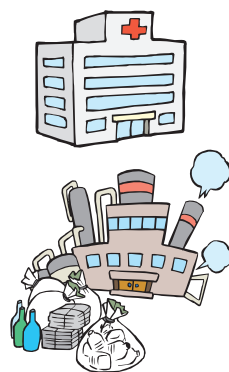
他にも病院、公共施設、ゴミ処理場などいろいろな所に使われていることを知ったのですが、こんな所に使う必要があるのかと疑ったものもありました。例えばめつたに人の通らない様な道路の工事や作ったのはいいけどかなり活用できていないと思われる施設など、国民から集めた大切な税金だからもっと大事に使うしてほしいと願います。

例えば、今は少子高齢化が進んでいて老人への負担の方が税金でとられています。子育てをする立場の人にも税金を使つて、親たちの負担を軽減してあげるべきだと思います。そんな簡単にできるようなことではないと思いますが、今の時代だ

と母親でも働く家族が多いと思うので、気軽に子どもを預けられる施設をたくさん設けたりすると、少子化は少し改善できるんじゃないかと感じました。

でも、やはりお年寄りの人の人口が増えてしまっていることが原因で、社会保障費が増大した結果、三パーセント消費税が増税してしまったこともかなり深刻なことだと思います。やっぱりそこは世界一の長寿国の影の部分があるのでしょう。しかしこのままだとどんどん増税をされていくのだらうと思

ます。だからどうにかお年寄りで生まれるたくさんの方の負担も減らそうとする努力が必要だということも考えさせられました。この税を通じていろいろなことを考えると、これは決して他人事ではなく、自分の身にも振りかかってくるのだという自覚も必要だと思いました。



* 右の絵と左の絵には相違点が7か所あります。見つかりますか？(答えは7頁にあります)



レーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」(グラフィック社刊)。